

技術報告集によせて

「技術職員による技術報告集」を1989年に発刊して以来、今回で21回目になりました。本報告集は毎年開催しています技術発表会をまとめたものです。当初は工学部技術部等の有志により運営していましたが、2008年より技術発表会の主催を三重大学とし、工学部のみならず、全学の教室系技術職員や事務部が一体となって実施しています。最初は小さな活動であったものが、継続の中で着実に実績を重ね、ここまで大きく発展したことを喜ばしく思います。

三重大学では、50名以上の教室系技術職員が工学研究科、生物資源学研究科、医学系研究科、教育学部及び学内共同利用施設等に在籍し、個々に専門的な技術をもって教育・研究支援に取り組んでいます。専門分野が異なる技術者が、お互いの考えや意見を出し合い、議論を戦わすことが自らの知識や技術の向上につながり、大学運営や組織の活性化にも結びつきます。

今年度開催する技術発表会では、学外から多数の寄稿・報告があり、名古屋工業大学、静岡大学が発表してくれることになりました。さらに、近畿地区から京都教育大学が、関東地区から千葉大学が加わってくれることになり、大変嬉しく思っています。例年以上に活発な技術交流や情報交換が行われることを確信しております。

2010年4月から、第2期中期目標・中期計画が新たに始まりました。国立大学法人においては、運営費交付金の減額や人件費削減など一段と厳しい教育研究の環境となりますが、本学技術職員の積極的な自己研修への取組みは、「人財」を活かし、新たな独創性や創造性を生み出す活動に結びつくものと心強く思っております。

最後に、本来大学において教育・研究に携わる専門技術をもった技術職員は、教員・事務職員同様に無くてはならない存在であると考えております。本報告集が、大学における技術職員の重要性を学内外に発信するものであると同時に、多方面の皆様にご一読の上、忌憚のない意見をいただければ幸いです。

2013年2月

三重大学長 内 田 淳 正